

北広島町



贈呈理由

空調熱源機の更新にあたり、水蓄熱槽の継続活用でさらなる省エネルギー・省コストを実現



水蓄熱



セントラル



北広島町本庁舎

雄大な自然と田園文化が息づく町

北広島町は、広島県北西部、島根県との県境に位置する。1,000メートル級の山々が連なり、古くから山陽と山陰を結ぶ中継地として栄え、神楽や田楽などの民族芸能や日本海へ注ぐ「江の川(ごうのかわ)」と瀬戸内海へ注ぐ「太田川」2つの源流域をもつ、雄大な自然と田園文化が息づく町である。

また、広島都市圏に接しており、観光・レクリエーションエリアとして都市部との交流も多く、特に、スキー場が集積



空冷ヒートポンプチラー

する日本最南端の地域であり、中・四国、九州方面からの入れ込み観光客で賑わっている。

水蓄熱槽の有効活用で、カーボンニュートラルの実現を目指す

北広島本庁舎は、2001年4月当時の千代田町庁舎として竣工し、「健康で豊かな文化田園都市」のシンボルとして、町民の方に親しまれる利便性の高い施設である。

特に災害に対して強く、免震構造を有した建物は、竣工直後に発生した震度5弱の芸予地震の折に、災害時の防災拠点としての実力を証明している。

その本庁舎も竣工から20年が経過し、空調熱源機が老朽化してきたことからリニューアルを計画。ランニングコスト、CO₂の削減が可能で、特に『昼の負荷が多く、夜は負荷が低い』といった庁舎の特徴をカバーできるピークシフト機器の有効性については、

これまでも十分に享受していたため、継続して水蓄熱槽を活用し、熱源機のみをリニューアルした。

北広島町では、カーボンニュートラルの実現を目指すなかで、CO₂の排出を抑え、低コストの冷暖房が可能なシステムを20年前から採用していることは誇らしいことであり、またその果たす役割はこれからも大いに期待するところと考えている。

今後もこの熱源機の有効活用を図ることで、本庁舎が地球に優しく、町民に愛され親しまれる施設であり続けられるよう効率的・効果的な維持管理に努めていく。

北広島町本庁舎

所在地：広島県山県郡北広島町有田1234
 設備設計：西川建築設備設計(竣工当時)
 設備施工：機エネルギーソリューションアンドサービス
 延床面積：4,736㎡
 竣工：2020年更新

■ 設備概要

空冷ヒートポンプチラー 150kW×1台、
 冷温水槽390㎡
 空冷ヒートポンプチラー 118 kW×1台[東芝キャリア]